

神奈川県立金沢養護学校



# 学校だより

第33号 平成21年12月24日

## キャリア教育 (2)

副校長 渡邊昭宏

時代の変化はさまざま、小手先の知識や技能を身につけて卒業してもすぐに使い物にならなくなります。やっと入れた特例子会社でも、社会福祉法人でさえも、明日はどうなっているのかわからない時代です。こうした時代は「生きる力」つまりどれだけ基礎基本の力をしっかり身につけて卒業したかどうかが問われます。具体的には、

- ① 食べる、寝る、排泄する、着る、履く、脱ぐといった周辺に関する事
- ② 立つ、座る、歩く、またぐ、昇る、降りる、待つといった移動に関する事
- ③ つかむ、持つ、運ぶ、開ける、切る、掃く、洗う、煮るといった生活に関する事
- ④ 見る、聞き取る、従う、伝える、訴えるといったコミュニケーションに関する事

などです。もちろんA部門のかたは自力でなくても、機器や他人の力を使ってよいのですが、あくまでもそれが機器や他人任せでなく、どんな手段でも自分の意思が少しでもそこに入るように学習を積み上げていくことが、生きるための基礎基本といえます。

例えば「手で運ぶ」ということについて考えてみましょう。運ぶとは、物体を持ち上げたまま移動し目的地で丁寧に降ろすという一連の動作です。ともしびショップの面接で、ポットからコップに冷水を注ぎ、お盆で面接者に運ぶ試験課題がありました。スーパー等の現場実習ではさまざまな商品を運びます。ペットボトルや書籍などはズシリときます。足の運び方、腰の入れ方、姿勢の保持の仕方、バランスのとり方、腕が疲れたときの対処の仕方、持ったままの段差や階段の通り方など、実習前に学ぶことは山ほどあります。

しかし、実習先が決まってから一夜漬けで練習しても手遅れです。小学部の時から、椅子や机を移動する、おもちゃ箱や道具を運ぶ、給食のお盆を下げる、土や水の入ったバケツを運ぶ、宿泊でリュックを運ぶ、CDラジカセを運ぶ、平均台などを一緒に運ぶなど数え切れない学習の機会が学校生活のなかにあっただけです。最後の高等部3年間で簡単に身につけません。小学部から12年間かけて少しずつ積み重ねていく学習なのです。そのためには基礎から積み上げていくためのスモールステップと、指導の一貫性が重要です。こうした「生きる力」を育む、特別支援教育の根幹が**キャリア教育**といえます。

おうちでも、買い物をして荷物を家まで運ぶ手伝いを是非させてください。缶詰1個などからはじめ、野菜→瓶製品→豆腐→卵へとステップアップするとともに、重量や運ぶ距離を少しずつ増やしていきます。手を持ち替えることも大事です。大柄なかただとお米や灯油ポリタンクなどが少しでも運べたら頼もしいですね。家の中は学校より家具が多いので、その間をぬって物を運ぶ練習ができるよい環境です。階段があれば洗濯物などを持たせて昇り降りさせてください。落としたりしてもやり直しがきくもので始めるのがポイントです。実習までに何百回何千回と学習する機会があります。 (次回につづく)